

桜咲く時期の「春の女神」ーギフチョウー

陶史の森では、4月の始め、カタクリの花の周りをひらひらと飛び、花に止まり、吸蜜をしている美しいチョウを見掛けます。ギフチョウです。ギフチョウは桜が咲く時期だけに現れ、「春の女神」と呼ばれます。アゲハチョウ科ウスバキアゲハ亜科に属するチョウです。明治時代に岐阜県で初めて確認されたことが「ギフチョウ」の名前の由来となったとされています。

翅を広げた時の大きさ(開帳)は4.8~6.5cm程。成虫の翅は黄白色と黒の縦縞模様で後翅の外側には青や橙、赤色の斑紋が並びます。

下草の少ない落葉広葉樹林に生息し、成虫は年に一度だけ3月下旬から6月上旬に発生します。カタクリ、ショウジョウバカマ、スマレ類、サクラ類などの花を訪れ吸蜜します。黄色い花にはほとんど集まりません。幼虫はカンアオイの仲間の植物の葉しか食べないことから卵はこれらの葉に産みつけられます。幼虫は黒っぽい色をしており、ふ化してからカンアオイなどを食べて育ちます。サナギの期間は約10ヶ月と非常に長く、サナギの状態越冬します。

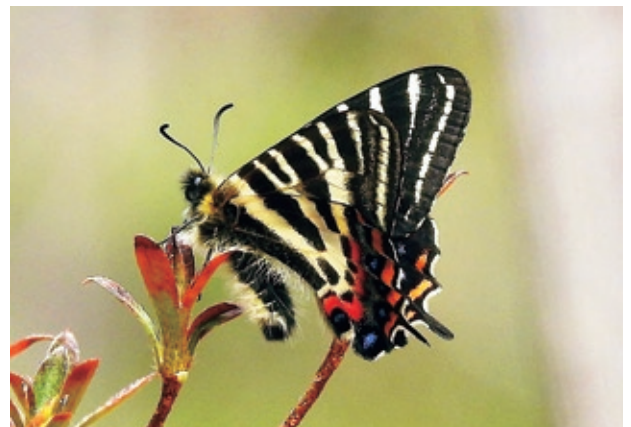
ギフチョウは個体数が減少しているチョウとしても知られています。環境省では絶滅危惧Ⅱ種としてレッドリストに記載されています。

陶史の森においても年々数が減少してきているようです。守っていききたい種のひとつです。

うらかな春の日にさまざまな花の間を美しく舞うギフチョウの姿をいつまでも大切にしたいと思います。



カタクリにとまるギフチョウ



ツツジにとまるギフチョウ



一年で「モッコモコ」

3月5日(金)

ヒツジ小屋を出てえさを食べるヒツジたちを撮りました。この1年間でみるみる大きくなった羊です。昨年の4月に毛刈りをして1年、厳しい冬を乗り越え、羊毛をたくさん蓄えたモッコモコの可愛い姿です。この



羊毛のおかげで陶史の森の7頭の羊達も寒い季節を元気に過ごすことができました。

4月には、また、暑い夏に備えて毛刈りをされたスリムな羊になっています。

教室のご案内

4月

バードウォッチング (要申込 10名)

4月25日(日) 午前9時~11時30分
春の野鳥を観察します。

5月

バードウォッチング (要予約 10名)

5月23日(日) 午前9時~11時30分
初夏の野鳥を観察します。

※上記行事につきましては、新型コロナウイルス予防対策のために中止になる場合があります。

陶史の森は自然環境保護地域です。動植物や石などは絶対に採らないでください。また、ペットの同伴はご遠慮ください。